



こう ずけ だい
上野台

第7号

発行日
H22.5.30

発行元
本多上野介正純公を学ぶ市民の会
〒013-8601
秋田県横手市中央町8-2
横手市横手地域局地域振興課内
TEL 0182-32-2701

※かつて本多上野介正純が横手での余生を過ごした高台が、現在も「上野台（こうずけだい）」と呼ばれている。

充実の平成21年度の活動を振り返る



冬の横手研修・交流会的一幕

宇都宮の藤井会長をご案内する多賀糸会長(右)。藤井会長(右から2番目)の素敵な笑顔が印象的。

平成21年度は、「冬の横手研修・交流会をはじめ、「正純公ゆかりの地周遊研修会」など「よみがえれ！宇都宮城」市民の会の皆様との交流や正純公について見識を深める事業を実施することができました。本号ではその21年度の活動を振り返ります。

冬の横手研修・交流会（1日目） ～平成22年2月15日 市内～



1日目①

雪に包まれた正純公の墓前で記念撮影

【冬の横手研修・交流会 1日目】
毎年行っている横手と宇都宮の交流事業の一環。1日目の2月15日、大型バスに乗って横手に到着した「よみがえれ！宇都宮城」市民の会の皆様の一声は「意外に寒くないね」でしたが、家にさがったつららを見ると「こんな大きなつららはじめて」と、目を大きくして横手の冬景色にビックリ。正純公の墓碑をお参りした後は、阿桜酒造様の酒蔵見学にて新酒を堪能し、そのままセントラルホテルの交流会においても宇都宮からご持参いただいたお酒と横手のお酒を互いに飲み交わしました。交流会後、横手のかまくら観光にだけ、冬の横手の幻想的な風景をご覧いただきました。



1日目-④

かまくら観光

→夜の幻想的な景色を前に話もはずみます。



1日目-③

交流会(セントラルホテル)

→久々の再会に、尽きない思い出話。宇都宮から手作り‘しもつかれ’のお土産も！



1日目-②

酒蔵見学(阿桜酒造)

→日本酒はもちろん、いぶりがっこも大好評！

冬の横手研修・交流会 (2日目) ～平成22年2月16日 市内～



2日目-① あかりアート展(こうじ庵)

【冬の横手研修・交流会 2日目】
1日目の楽しい交流の興奮そのままに2日目の朝を迎えました。はじめに、こうじ庵にてあかりアート展を見学した後、梵天コンクールを観光しました。そして、横手地域局にて合同研修会を開催。講師の佐川副会長にご講演いただき、「本多正純と政重」と題し、ご自身の金沢への歴史旅を通じてご提供いただいた「正純が政重に宛てた密書」の解説を交えた講演を聞き、見識を深めることができました。最後は、お互いの別れを名残惜しむかのようにバスは宇都宮へと向かいました。寒さ厳しい折お越いただき、さらに心こもった手作りのお土産をおもてなし下さいました宇都宮の市民の会の皆様に改めて感謝申し上げます。



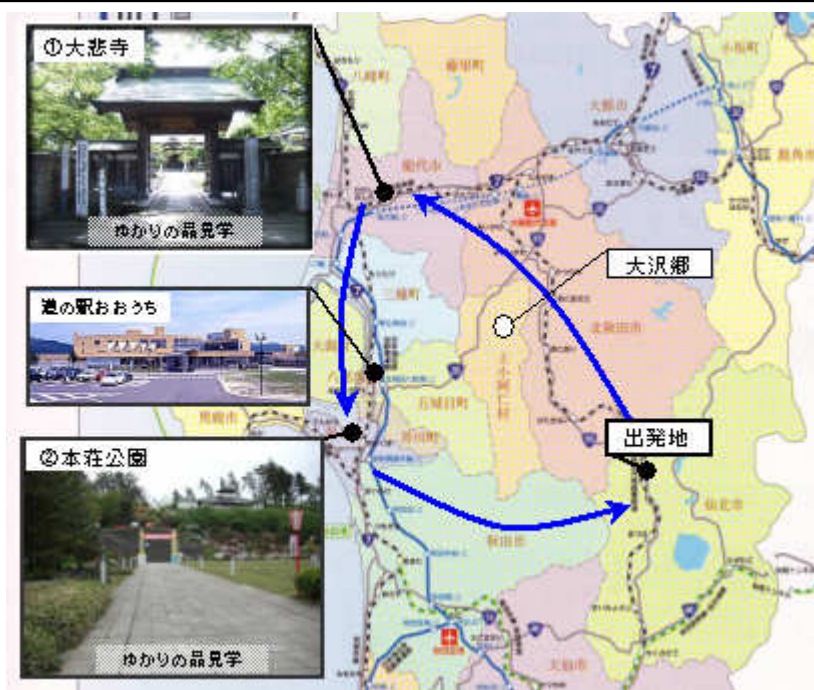
2日目-③ 合同研修会



2日目-② 梵天コンクール

正純公ゆかりの地周遊研修会～平成21年6月20日 県内～

平成22年6月20日(土)、6月にもかかわらず少し汗ばむほど好天に恵まれ、約30名を乗せたマイクロバスは、正純公のゆかりの品に導かれるように秋田市の大悲寺、そして由利本荘市の本荘公園へ期待に胸を弾ませながらその地に向かいました。所有者の方のご好意により実現したこの企画。歴史を感じさせる品を目の当たりにし、秋田にしっかりと刻んだ正純公の生涯に、会員それぞれが想いを膨らませた研修となりました。



道の駅おうちにて名物ととろ飯を堪能。



①これが正純公の什器。会員のみなさん興味津々。大悲寺(秋田市)



②本荘公園指導員斉藤様による本荘藩の歴史講演の熱弁



②所有者の方のご好意により本荘公園内にて正純公が着用していたとされる袴と感動のご対面。

正純公書状解説学習会 ～平成21年5月31日 かまくら館～



高橋 純一 先生



本多正純公書簡

総会終了後、県内在住者所有の正純公書状解説学習会を実施。横手郷土史研究会会長の高橋純一先生に解説いただきました。

石川丈山研究会(安城市)ご案内 ～平成21年7月2日 市内～



しっかりと訪問を記名



佐川邸にて勉強会

正純公と縁戚関係にある江戸時代の文人・石川丈山の研究会の皆様が愛知県安城市より正純公について学習するため横手にお越し下さいました。

赤の梅もどき植替え ～平成21年11月6日 上野台～



元気に育ちますように。



植替え完了！

平成18年に「よみがえれ！宇都宮城」市民の会より「寄贈の「赤の梅もどき」の生育が思わしくなく、新たに「寄贈いただき、宇都宮の事務局の皆様と植替えをいたしました。

(事務局 糸井 豪)



編集後記

今回会報第7号を作成するにあたり、平成21年度の活動を振り返りましたが、実に充実した1年だったことがわかりました。これも一重に会員の皆様方の意欲的な活動の賜物であると感じます。事業の中心を振り返ると、宇都宮や安城市からお越しいただき交流することができたのも正純公の歴史に対する探究心が出会いを生んでいることを感じました。そのような意味において総会後の書状解説勉強会にはじまり、冬の横手研修会で終えた今年度は歴史への探究心を掘り起こす充実した活動だったと思います。今後も皆様方の探究心が会の活動を支えていくのだと感じた21年度でした。